

児童の興味・関心を生かした校内別室指導について

不登校児童の状況

対象児童は、小学校4年生時に「教室に入れない。」という理由で校内別室の利用を始めた。落ち着いて学習に取り組んだり、難しいことにじっくり取り組んだりすることが苦手であった。また、一方的に自分の気持ちを言動で表してしまうため、人との関わり方についても気を付けて支援している。小学校6年生では、ほとんど毎日校内別室に登校できている。

具体的な取組

○安心できる場所としての環境づくり

ロッカーの代わりに荷物置き場を用意し、当該児童の興味、関心がある植物の鉢植えや自作の人形等を部屋に飾った。また、畑やプランターで花や野菜を栽培し気分転換したり、気持ちを落ち着かせたりすることができるようにした。



○小集団活動の設定

校内別室を利用している他の児童とゲームやものづくりを一緒に行い、関わり方を身に付けられるようにした。

活動の中で、自分の言動について気付かせるような言葉がけをしたり、振り返らせたりすることで、次第に相手の気持ちを考えて会話するような姿が増えてきた。

○児童の思いを尊重

毎朝、その日の在籍学級の時間割を確認し、参加できそうな活動の確認をした。また、校内別室の部屋で朝や帰りの会を行い、その日のめあてを決めたり、振り返りを行ったりして学校で活動しているという自信を少しずつ実感できるようにしていった。

○学級との関わりの維持

担任や在籍学級の子が定期的に校内別室に行き、休み時間にはできるだけ、一緒に過ごすようにした。

特に、行事の前には担任が当該児童の気持ちを聞き、参加できる活動を一緒に考えるようにした。

給食は当該児童が支援員と共に在籍学級の廊下まで取りに行くようにした。

成果

教室で給食を食べたり、学級のみんなと卒業アルバムの撮影をしたりすることができた。運動会では係の仕事として小学校1年生のお世話をしっかり行った。当該児童がやってみようという思いを実現できることが増えてきている。

課題

当該児童の前向きな気持ちを大切にしつつ、実際の友達との関わり方を学んでいけるような支援を中学校でも継続していくこと。